総合的な学習の時間・選択教科に役立つ

国際理解教育の手引き

■平成15年度小学校教師海外研修に参加して■

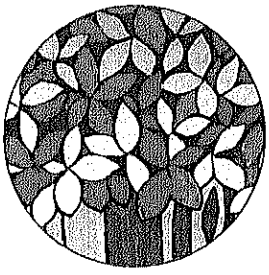
大きな地球の木の下で

JICA LIBRARY
1192267 [1]

国内
JR

JICA
ジャイカ

独立行政法人 国際協力機構



はじめに

研修を生かした授業実践例

低学年から取り組む国際理解教育 …… 小澤　悦子　4

南の島の友達へ …… 雪原　知代　10
～共に未来を守るためのメッセージを送ろう～

世界の人々のことを考えよう …… 中山　健次　19
～タンザニア連合共和国についての学習を契機として～

世界の人々とのつながりを広げよう …… 天願　直光　25
～開発途上国の現状に目を向けて～

心の窓を世界に広げよう …… 山口　浩　38
～ベトナムを窓口にして～

知ろう世界の友だち　交わろうベトナムの友だち …… 大月　正雄　42
～平和の絵をカレンダーにして、ベトナムへ平和のメッセージを送ろう～

〈教科編〉

図画工作　ジャンボ！アフリカ …… 森本　美鶴　49
～アフリカンマスク、マイマスク～

国　語　世界の友だちとつながろう …… 高木　光子　54
～「タンザニアの子ども達」の学習から～

音　楽　遠い国？！タンザニア …… 中元　継乃　60

参考資料

事前研修 …… 66

東京研修日程 …… 66

コース別日程／参加者氏名（フィジー） …… 68

コース別日程／参加者氏名（ベトナム） …… 71

コース別日程／参加者氏名（タンザニア） …… 74

訪問国概要 …… 77

開発教育関係団体及び教材紹介 …… 80

JICAはこんなこともしています …… 86

地域国際化協会一覧 …… 87

問い合わせ先 …… 89

1192267 [1]

研修を生かした授業実践例

低学年から取り組む国際理解教育

小澤悦子 OZAWA ETSUKO
守谷市立松前台小学校（茨城県）

実践教科　国語・生活科・音楽・体育・学級活動・道徳
時 間 数　45時間
対象学年　2年生
対象人数　59名

カリキュラム案

実践の目的

世界にはいろいろな国、人々、そして様々な文化があることを知り、偏見なくいろいろな国の人達と仲良くしようとする心情を育てたいと考えた。さらには、世界の国の人々（特に子ども達）の生活と比べて自分たちの生活を振り返り、よりよい生き方をしようとする心情をも養いたいと考えた。

その際、低学年においては、総合的な学習の時間がなく、１教科で授業を展開することは難しいため、いろいろな教科を横断的に、時には合科的に扱う事で、テーマに迫ることにした。ただし、本実践は、試行として考えているため、関係教科・領域等のねらいとの整合性については、実践の結果を踏まえ、今後の検討すべき内容であることをつけ加えておきたい。

ALT…Assistant Language Teacher. 外国語学習指導助手

授業の構成

○数字は時数

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・8時限〈音楽④ 生活科② 国語②〉 いろいろな国の言葉や歌で遊ぼう ・いろいろな国の文化に興味関心を持つ。	・いろいろな国のあいさつや数の数え方を調べる。 ・わらべうたを歌ったり、歌に合わせた伝承遊びをしたりする。	・音楽教科書教材「世界の国からこんにちは」新学社教材CDより ・ヒッポファミリークラブCD
9・20時限〈生活科④ 体育⑤ 音楽③〉 フィジーについてしょうかいしよう	・資料を見て、気づいたことを話し合う。 ・フィジーの文化や子ども達の生活について知った事を伝える。 ・クイズ大会をする 。 ・運動会でブラダンスを踊る。 ・「ふれあいまつり」で挨拶や数の歌を発表する。	・フィジー○×クイズ(資料1) ・現地で撮影した写真や映像 ・絵本「みなみのしまのあさ」 ・メケ のCD ・地球儀と世界地図
21・28時限〈音楽① 国語① 生活科①〉 外国の人となかよくなろう	・外国の話を聞いたり、歌を歌ったり子ども達の遊びを教えてもらったりする。	・音楽CD
22・38時限〈国語⑮〉 世界の国の子ども達の暮らしについて話し合おうⅠ ・いろいろな国の子ども達の生活を調べ、話し合う。	・国語の教材文を読んで、話し合う。 ・本を読んだり、話を聞いたりして、世界の子ども達の暮らしを調べる。 ・本校のALTやその友人の外国の方、青年海外協力隊経験者の方のお話を聞く	・「世界の子どもたち」34巻（偕成社） ・「世界の子どもたちはいま」24巻（学習研究社） ・「外国の小学校」（福音館書店）

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
19・20時限〈国語② 学級活動② 道徳①〉 世界の国の子ども達の暮らしについて話し合おうⅡ ・自分の生活を振り返る。	・「通学」「勉強」「昼食」「遊び」等について、自分達と比べて気づいたことをカードにまとめる。 ・「アミイの夢」を読んで、考えたことを話し合う。	・「地球の仲間たち」（開発教育を考える会） ・「世界の子どもたち－NGOの現場から－」（フォスタープラン・オーストラリア）
24時限〈学級活動①〉 世界の国の子ども達の暮らしについて話し合おうⅢ ・開発途上国の子ども達の生活について知り、自分にできる国際協力や援助の仕方を考える。	・開発教育に関するゲームをして話し合う。 ＊もし文字が読めなかったらどうなるか ＊学校に通えない子たち	・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」（開発教育協会） ・「すべての人に教育を」（ユネスコパンフレット） ・「学校に行きたい」（JICAパンフレット）
46時限〈学級活動①〉 世界の国の子ども達の暮らしについて話し合おうⅣ ・自分たちにできる国際協力を話し合い、取り組む。	・各種募金に協力する。 ・不要になった楽器や運動用具、余っている学用品などを集め寄付する。 ・書き損じはがきや使用済み切手を集めて送る。	

授業の詳細

9・20時限

フィジーについてしょうかいしよう

資料として現地のビデオ映像を見た後、フィジーの地理や習慣、学校の様子などに関する○×クイズ作りをした。2年生の子どもたちには、1度映像を見ただけでは的確に内容を捉えることは難しく、興味関心がこちらの意図することとずれてしまっていることも少なくないので、写真で補足しながら、文も一緒に作る形でクイズを作った。(資料1)

運動会の表現で、首都スバの小学校で紹介してもらったリゾートアクティビティーのダンスを踊った。スル（現地の伝統的な巻きスカート様衣装）にみたてた布を巻き、頭に花を飾って踊った。ノリのいい曲で子ども達は練習にも意欲的に取り組んでいた。

11月には、学校行事の学年発表の中で、1学期から学習した色々な国の挨拶や3までの数え方を合唱に仕立てて発表した。(資料2)

運動会でフラダンス

21・28時限

外国の人となかよくなろう

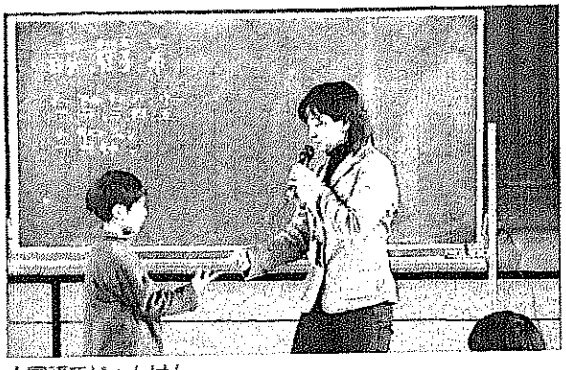
（JICA国際協力出前講座）

本校のALT（アメリカ）や市の研修員（ドイツ）等との授業を通してその国の文化に触れてきたが、その他に、JICA国際協力出前講座を利用してタイの方と中国へ青年海外協力隊員として派遣されていた方から現地の自然や気候、子ども達の生活の様子など話を聞いたり、わらべ歌や子ども達の遊びを教えてもらったりした。

本を読んだり、写真を見たりするだけでなく、実際にいろいろな国の人に会い、話を聞くことで、相手の国への親しみを持ち、理解が深まったと思う。

子ども達の反応・感想

・タイからのお客さんを見たとき、日本人だと思った。日本人とタイ人は似ているんだなと思った。


中国語でじゃんけん

・いろんな国のじゃんけんの言い方が面白い。
・日本の鬼ごっこと似ている遊びがあった。

24・45時限

世界の子ども達の暮らしについて話し合おう

●フォトランゲージ教材「地球の仲間たち」を使って（39-43時限）

世界の様々な国の子ども達の生活と自分達の生活を比較するために、写真を使ったアクティビティーを行った。

①グループ対抗で、読みあげた内容が写された写真を取る、写真カルタ取りをする。
②取った写真を、グループごとにひとつの国で揃える競争（ぶたのしっぽゲーム）をする。
③揃った写真を順に並べて、内容を確認し、補足説明を聞く。

留意した点

カルタの写真には南太平洋のバヌアツ、アフリカのボツアナ、中東のヨルダン、南米のボリビアと、地域や人種・宗教等が異なる様に選んだ4カ国に、ダミーカードとしてアメリカ合衆国の5カ国をとりあげた。混乱を防ぐために、カルタ取りの際は黒板にカードを張って、1回に各グループから一人ずつ出て4人で取るようにした。「ぶたのしっぽ」の際も不要なカードを持って集まり、1列に並んで交換するようにした。

写真を並べて読み札を再読しながら、地域の特色について補足説明をすることで、その国への理解が深まるようにした。

グループ対抗かるたとり

組になる写真をそろえる（ぶたのしっぽゲーム）

子ども達の反応・感想

・子ども達が働いていたり（水汲み・料理など）、学校が午前中で終わったり、自分達とはずいぶん生活の様子が違うので驚いた。
・イスラム教は、女の人が布を被らなきゃいけなかったり、学校に行けなかったり、食べ物も自由に好きなものが食べられないなんてどうしてだろう、厳しいなと思った。
・世界には、いろんな暮らし方があるんだなと思った。もっといろんな国のことを知りたいし、行ってみたいと思った。
・軍人という仕事があることを初めて知った。ヨルダンの子が、大きくなって軍人になって戦争に行きたいといっていたけど、怖くないのかなと思った。

考察

比較的簡単なゲームなので、進行もスムーズに行き、ゲームを通して、自分達の暮らしぶりとは異なる子ども達の存在に気づくことがでた。価値観の違いに疑問を持った子もいて、さまざまな国や民族・文化の存在

を理解することができた。

ぶたのしっぽゲームについては、「初めはどの子が同じか分からなかったけれど、グループのみんなで探したらみつかった。」と、協力の大切さに気づいた意見なども出た。

●ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら」を通して（44時限）

世界の状況や開発途上国の抱える問題（特に、学校に通えない子ども達がいる状況）を把握するためのアクティビティーを行った。

①役割カードを配って、自分の役割を確認する。

②「世界の人口」

―― 現在の人口がおよそ63億人であることを知る。

③「男性と女性どっちが多い？」

―― 男性役と女性役に分かれて比べる。

④「世界は今、高齢化？若年化？」

―― 子ども役は黄色い帽子を、老人役は白い帽子を被って、大人役と３列に分かれて並び、人数を比べる。

大陸ごとに分かれてみよう

文字が読めず、指示が出ても動けない

⑤「大陸ごとに分かれてみよう」

―― 床に面積に応じた長さの紐で囲って大陸を配置し、指定された地域に分かれて、人口を比べる。

⑥「文字が読めないということ」

―― ネパール語で書かれた「座ってください」というカードを提示して、文字が読める人はその言葉に従う。

⑦ゲームをしてみて感じたことや考えたことを話し合う。

■子ども達の反応・感想

・④で、日本は高齢化で、世界で１番の長寿国であることを知らせると、「食べ物が十分あり、医療も発達しているから幸せだ。」という意見が相次いだ。世界には、貧困や戦争のために、平均寿命が30代の国もあることを知り、一層その感を強くしたようである。

・⑤で大陸毎に分かれると、アジアに人口が集中していることが一目瞭然で、オセアニアの場合、ここに100人いたとしても１人にもならないことを知り、大変驚いていた。

・⑥は、２年生の子どもたちでは当然混乱するだろうと予測していた。文字が読める役の子も、意味が分からなかったり、漢字が読めなかったりして、ほとんどの子が指示通りに動けなかった。

・「自分は字が読めることが当たり前だと思っていたけれど、学校などで勉強しているからできることで、世界には字が読めない人もいることを初めて知った。」「字が読めないと困るということなど考えたこともなかった。」等の感想が出た。

■考察

⑥で指示通りにできなかった原因は、役割カードの文字が読めないためだった（敢えて読み仮名を振らなかった）ことから、文字が読めないとどんな時に困るかを実感として捉えることができた。教育の大切さを感じた後で、JICAパンフレット「学校へ行きたい」を使って、世界には教育を受けられないために読み書きができなくて困っていたり、貧困から抜け出せない人が大勢いることを知らせ、翌週からの校内ユニセフ募金の動機付けともした。

成果と課題

構成や内容が低学年の子どもには難しいかと考えていたが、比較的スムーズに展開することができ、様々な事象の理由等についても、子ども達なりに考えることができた。

いろいろな国の文化や子ども達の生活の様子を調べる学習を通して、日本との違いだけでなく、同じところ、似ているところを見つけ出しており、困難な状況にある人たちに何かしてあげたいというような感想を漏らす子もおり、共同・協調といった国際理解の上で大事な視点から物を捉える素地が作られてきていると思う。

週1回のALTとの授業をはじめ、教室に世界地図や挨拶の言葉を掲示する、授業で取り組んだことは必ず掲示物にする、学習した歌やゲームを機会ある毎に繰り返し楽しむ、授業時間だけでなく日常生活の様々な場面で、国際理解に役立ちそうな活動を行う（朝の読書の時間に、外国の子ども達の様子が描かれた本を読み聞かせる、帰り際にいろいろな国の言葉でじゃんけんをする）など、継続した活動が根底にあり、低学年ながらも充実した学習が行えたと思う。

今後は、学習したことをどのように自分達の生活に生かし、行動していくかが課題といえる。それは、世界の状況から見れば恵まれたともいえる自分の生活の状況を認識し、困難なことに出会ったときに、くじけずに頑張ることであったり、自分達にできる範囲でチャリティーに協力したり、ボランティア活動に参加したりということである。

しかし、小学校低学年の子ども達の年齢や発達段階から、多くを望むのは無理であろう。世界に目を向け、いろいろな国があり、いろいろな暮らしがあるということを理解したことで、第一歩を踏み出せたと思う。今回学習したことが子ども達の心に残り、今後、成長するにしたがって、具体的な行動に移せる子が一人でも多くなることを願っている。

資料1 フィジーについてしょうかいしよう

フィジー○×クイズ

番号	問　　題	答え	備考(正解)
1	フィジー語で「こんにちは」は「ブラ」と言う。	○	Bula
2	フィジー人と同じぐらいインド人も住んでいる。	○	
3	主食は米である。	×	タロいも
4	フィジーはいたるところにススキが生えている。(写真提示)	×	さとうきび
5	男の人もスカートをはく。	○	スルと言う
6	サッカーが一番人気のあるスポーツである。	×	ラグビー
7	学校では、小学生も制服を着る。	○	
8	学校の新学期は9月から始まる。	×	1月
9	学校では、図工や音楽や体育などの技能教科は授業にない。	○	
10	「ヴィナカ」は「さようなら」と言う意味である。	×	ありがとう

資料2 「みんなで1・2・3」(山本純之介作曲)

フィジーバージョン替え歌

ブラ！
世界のなかまたち　　元気にごあいさつ
手と手をつなぎあい　　仲良く握手
みんなの歌が心をつなぐ
世界の言葉で　　数えてみよう
デュア・ルア・トゥエロ
デュア・ルア・トゥエロ

参加動機およびプロフィール

もともと海外旅行が好きだった事や、国際交流を図る事を目的の一つとしている民間団体に所属していることもあって、JICA筑波の研修に参加させていただくようになって1年弱です。旅行の経験の積み重ねやJICAでの研修により、世界のいろいろな現実に目が行くようになってきました。

世界の中で起こっている様々な出来事や、悲惨な状況を見聞きする度、自分の無力さを感じますが、自分の授業によって、少しずつでも世界に関心を持つ子が増え、広い視野で物事をとらえ、行動する大人に育ってくれればと願って、微力ながら頑張っています。

南の島の友達へ
～共に未来を守るためのメッセージを送ろう～

雪原知代 YUKIHARA CHIYO
高根沢町立阿久津小学校（栃木県）

実践教科　総合的な学習の時間
時 間 数　16時間
対象学年　4年生
対象人数　33名

カリキュラム案

実践の目的

1. 南の島に生活する人々の生活、南の島の自然の素晴らしさ、そしてそこに存在する環境問題を知るとともに、身近な自然や環境問題について学んできたことを振り返り、遠い世界と自分たちの生活がつながっていることに気づく。
2. 自然や環境問題を通して世界のつながりを感じることで、世界の中で生きている自分という見方をもち、多くの人々と未来を共に描いていこうと考える力を付けるとともに、自ら考えたことを世界に向けて積極的に発信しようという態度を養う。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 南の島の人々のくらし フィジーで暮らす人々の生活や文化を知り、興味をもつ。	(1)南の島のイメージを話し合う。 (2)写真からクイズ形式でフィジーの人々の生活を想像し、話し合う。 (3)ビデオを通してフィジーの文化に触れる。 (4)カバを飲む等、フィジーの「もの」に触れる。	・世界地図 ・フィジーの地図 ・フィジーの写真　(資料1) ・ビデオ ・フィジーで収集した資料
2時限 南の島の小学生 フィジーの小学校の様子や環境学習について知り、フィジーの子ども達に親しみをもつ。	(1)フィジーの小学校の様子を知る。 (2)フィジー環境庁での取り組み（木邑青年海外協力隊員の活動）について知る。 (3)今まで総合学習で取り組んできた自然や環境の学習を振り返る。 (4)フィジーの小学生も同じように学校で勉強し、ゴミ問題を学んでいると知り、親しみを持つ。	・世界地図 ・フィジーの地図 ・フィジーの写真　(資料2) ・ビデオ ・フィジーで収集した資料
3時限 南の島の環境問題 南の島の環境問題について考える。	JICA国際協力出前講座（協力隊OB土山人一さん） (1)マーシャル諸島の自然・環境についての講演を聞き、大きな環境問題を抱えていることを知る。 (2)青年協力隊の体験から得たことを聞き、世界のためにできることについて考える。	・パワーポイント
4時限 南の島の自然・環境 南の島の自然・環境について調べる。	(1)南の島の自然や環境についてもっと知りたいこと、身近な自然や環境についてもっと考えたいことについて話し合う。 (2)インターネットや資料で調べる。 (3)木邑隊員や、協力隊OBの土山さんにもっと聞いてみたいことまとめて、手紙に書く。	・インターネット ・環境問題を扱った図書資料

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
5時限 世界のつながりを考えよう 自然を通して、南の島と自分たちとのつながりを感じる。	(1)フィジーや南の島のことで分かったことをもとに、自然・環境のキーワードからワークショップ「くもの巣」を行う。 (2)ワークショップから考えたことを話し合い、感想をまとめる。	・毛糸 ・役割カード ・ハサミ・マジック
6時限 小さな事から始めよう 今までの学習を振り返るとともに、他の小学生の活動を知り、今後の活動について見通しをもつ。	(1)今まで取り組んできた学習を振り返る。 (2)ワールドスクールネットワークのHPから、他の小学生の環境問題に対する取り組みを知る。 (3)今後の活動について考え、話し合う。 (4)まず、冬休み中に身近で実践できることを考え、実践計画を立てる。	・絵本「空気はだれのもの？」葉祥明（自由国民社） ・インターネット
7時限 実践を振り返ろう 冬休み中の実践を振り返り、小さな努力の積み重ねが大切であると気づく。	(1)冬休み中に実践したことを発表し合い、よかったところ、うまくいかなかったところを話し合う。 (2)小さな努力が大切であると気づくとともに、一人一人の小さな力を大きな力にするためにはどうしたらよいか考える。	・各自の実践記録
8時限 便利さとゴミ問題 日本のような先進国といわれる国々は、世界の中でも環境破壊に大きく関与していることに気づく。	JICA国際協力出前講座（協力隊OG佐藤玲子さん） (1)フォトランゲージ「地球家族」の4枚の写真資料を比較して、それぞれの国の人々の生活を考え、共通点、相違点を話し合う。 (2)便利さとゴミについて考え、生活様式によって出るゴミの量に差が生じることに気づく。 (3)それぞれの国についてボランティア・ティーチャーの話を聞く。 (4)2枚の写真資料から同じ地域でも都市部と農村部では格差があると気づく。 (5) 感想をまとめる。	・フォトランゲージ「地球家族」国際理解教育センター（ERIC）
9時限 青年海外協力隊員からのメッセージ フィジーの子供たちとの交流について具体的に考える。	(1)木邑隊員の回答から、フィジーの子供たちの活動を詳しく知り、自分たちの活動と比べる。 (2)木邑隊員と土山さんからのメッセージを読み、フィジーの子供たちとの交流について具体的に考える。	・木邑隊員の活動写真 ・木邑隊員と土山さんからの質問の回答とメッセージ
10時限 身近な自然を感じよう 身近な自然の素晴らしさを振り返る。	(1)木邑隊員がフィジーの子供たちと行っているような自然体験プログラムを行う。 (2)体験を通して感じたことを話し合い、感想をまとめる。	・宝物リスト・バンダナ ・記録用のカード ・探検バインダー
11時限 今自分にできることを考えよう	(1)学習したこと、話し合ってきたことをまとめ、望ましい未来を作るために、改めて今の自分にできることは何かを考える。 (2)自分たちの学習したことや考えたことを南の島の友達へ発信しようと考える。	・今までの授業で使ったワークシート ・活動を振り返る写真
12時限 南の島の友達へ伝えよう フィジーの友達へ発信する計画を立てる。	(1)私たちの小学校や好きな遊びを紹介する。 (2)身近な自然や環境について調べたことや考えたことを伝える。 (3)私たちの学校や町で行っているリサイクルのことを伝える。 (4)南の島のことを知って考えたことを伝える。 (5)南の島の友達へのメッセージを送る。	・今までの授業で使ったワークシート ・活動を振り返る写真

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
10～15時限 友達へ伝えたいことをまとめよう 共に未来を築く仲間として、フィジーの友達へ伝えたいことをまとめる。	(1)南の島の友達へ伝えたいことを写真、絵、文章、メッセージ等にまとめる。 (2)自分たちの考えたことをフィジーの小学生に伝えてほしいと木邑隊員に依頼する。	・デジタルカメラ ・模造紙・マジック
16時限 お礼の手紙を書こう 単元全体を振り返る。	(1)お世話になった木邑隊員、土山さん、佐藤さんにお礼の手紙を書く。 (2)単元を通しての感想をまとめる。	・今までの授業で使ったワークシート ・活動を振り返る写真

授業の詳細

1時限

南の島の人々のくらし
～南の島「フィジー」の紹介～

フィジーの場所・大きさ・人気のスポーツ（ラグビー）・スル（衣装）・カバ（飲み物）の儀式・ラリ（楽器）・タパ（樹皮を使った紙）・食べ物・メケ（伝統的な踊り）等を紹介した。クイズをまじえながら、写真（資料1）、ビデオ等を見たり、実物に触れたりした。カバは実際に飲んでみた。

子ども達の感想

・フィジーのことをはじめて知って、嬉しい。
・普段見聞きすることのできないものに触れられてよかった。
・もっと詳しく人々の生活、食べ物や生き物、学校のこと、言葉等知りたい。

カバを飲む

2時限

南の島の小学生
～フィジーの小学校の様子と青年海外協力隊員の活動紹介～

フィジーの小学校を中心に、中学校や専門学校の様子もビデオ視聴と写真（資料2）を通して紹介した。

フィジー環境局に所属し、フィジーの小学生に環境教育をしている青年海外協力隊員の木邑さんを紹介した。

子ども達の感想

・子ども達はみんな明るく元気だ。
・みんな仲良く遊んだり勉強したりしているようだ。
・算数等ぼくたちと同じような勉強をしていた。
・フィジーの小学生は紙や鉛筆をとても大切にしていることが分かった。
・フィジーにもゴミ問題があると分かった。

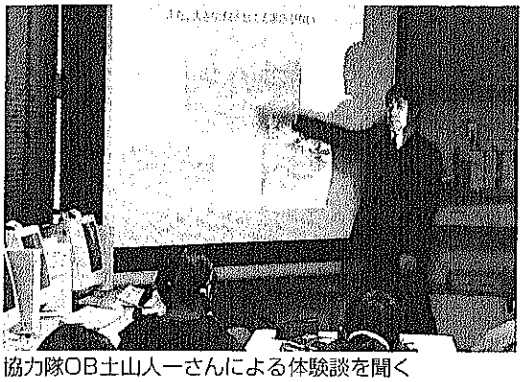
3時限

南の島の環境問題
～マーシャル諸島の環境問題について～

JICA国際協力出前講座：協力隊OB土山人一さん

次の4つの内容についての体験談を聞いた。

①マーシャル諸島はどんな国？マーシャルの自然について
②マーシャル諸島の環境問題（ゴミ問題・地球温暖化・海洋汚染）について
③ゴミ問題について（フィジーのゴミ問題・日本の


協力隊OB土山人一さんによる体験談を聞く

ゴミ問題にもふれて）

④協力隊の体験から得たものについて話を聞く。

子ども達の感想

・1年中夏だと聞いてびっくりした。
・自然が素晴らしい。海がきれい。
・こんなきれいな自然をもつ国なのにゴミ問題があるとはびっくりした。
・日本から流れていくゴミがマーシャルにも行くということを聞き、びっくりした。

4時限

南の島の自然や環境について調べよう
～地球温暖化を中心に～

南の島の自然や環境についてもっと知りたいこと、調べたいことについて話し合い、図書資料やインターネットを使って調べる時間とした。今まであまり親しみのない言葉だった「地球温暖化」について調べる子が多く、インターネットによる調べ学習が中心となった。

調べても分からないことやもっと聞いてみたいことをまとめて、フィジー環境局の木邑隊員やマーシャルについて教わった土山さんへの手紙を書いた。

子ども達の感想

・地球温暖化のしくみがよく分かった。
・地球温暖化を防ぐために私たちにもできることがあるんだと分かった。

5時限

世界のつながりを考えよう
～ワークショップ「クモの巣（wooly thinking）」～

①「自然」にあるもの（私たちの身の回り、または1～4時限目までに出てきたもの）を挙げていく。「太陽」「空気」「海」「魚」「海亀」「島」「木」「雨」「人（4-2の皆）」「人（フィジーの皆）」など。

②①で出てきたものの名前をカードに書いて一人一枚のカードを持ち、円になる。

③②でカードに書いた言葉と言葉の関係を発表し合う。「人は空気がないと生きていけない。だから毛糸でつなげよう。」「雨が降って木が育つ、だから毛糸をつなげよう。」など。

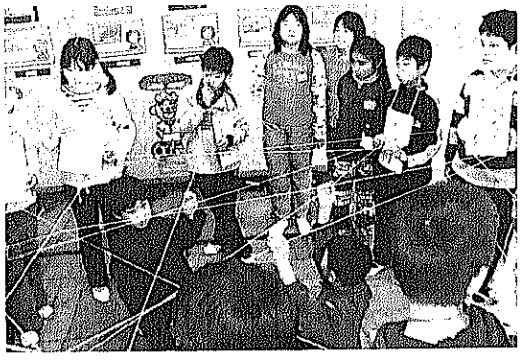
④1本の毛糸はあちこちに絡みながら円になったカードを持つ人たち全員を繋いでクモの巣のようになる。

⑤どこをひっぱっても誰かが引っ張られる、みんながゆれる、ということから自然界のつながりを疑似体験する。

⑥次に、教師は「⑤でつながりあった自然界の一部が、もしも今壊れてしまったらどうなるのか。」という問いを子どもに投げかけながら、ハサミを用意する。そして、「海亀が、今ビニールゴミを食べて死んでしまったとしたら…」とか、「地球温暖化の影響で南の島が一つ沈んでしまったとしたら…」とういうように具体的な例を挙げながら、つながっていた毛糸を切ってしまう。するとお互いに支えあっていた糸がだんだんゆるくなり、クモの巣はあっという間に壊れてしまう。

⑦全員が再び円になって座り、シェアリングをする。

「自然」にあるものを書いて円になる



関係のあるものを毛糸で繋ぐ。
自然界のつながりを疑似体験。

子ども達の感想

毛糸がつながったときは嬉しかった…みんなつながっているんだということが分かった。全部自然はつながっているんだね。糸が切れると寂しかったし、悲しかった…一つがだめになると全部だめになり、いつかは地球もだめになると分かった。クモの巣は現実と一緒だと思った。一つが切れるとみんな切れるから一つも切らないようにしないといけないね。

6時限

小さなことから始めよう
～冬休み中の実践計画～

1～2学期の総合で学習した自然・環境に関することや本単元1～5時限目で学習したことをふまえて、今自分にできる小さな努力について考え、冬休みの実践計画を立てた。冬休みの実践では、各自立てた計画にそって、毎日の実践記録をとる。あるいは、フィジーのことや環境問題について調べたいことをそれぞれ図書資料やインターネットで調べることとした。

子ども達の計画

ご飯を残さず食べる、ゴミを減らす、ゴミの分別、ゴミ拾い、ゴミをポイ捨てしない、リサイクルできるものはリサイクルする、物を最後まで大切に使う、テレビをつけっぱなしにしない、ゴミとなるもので遊び道具を作る、こたつやストーブをむだに使わない、使っていないもののコンセントを抜く、自分の部屋の電気をつけっぱなしにしない、など

7時限

冬休み中の実践を振り返ろう

実践したことや調べたことをお互いに発表し合い、気がついたことを話し合った。

子ども達の感想

外でいっぱい遊ぶこと（自然の中で遊ぶこと）も電気の節約になる、そして自然を守ることになるって気がついた…すごい…もっと外で遊ぼう。小さなことでも世界中のみんながやれば、地球温暖化はすぐ止まると思う。みんなの発表を聞いて分かった節約の方法をまねして、たくさん節約していきたい。

8時限

便利さとゴミを出す生活について考えよう
～フォトランゲージ「地球家族」～

JICA国際協力出前講座：協力隊OG佐藤玲子さん
（栃木県国際交流協会）

佐藤さんをファシリテーターにフォトランゲージを行った。

手順は以下の通りである。

①4枚の写真（エチオピア、サモア、タイ、日本）から、便利な生活ランキングを考える。
②同じ4枚の写真から、ゴミを多く出す生活ランキングを考える。
③①と②の関連性を考える。またどの写真にも共通して「在るもの」を見つける。
④協力隊時代の体験談とともに、4つの国の生活の様子について佐藤さんの話を聞く。
⑤2枚の写真（エチオピア、南アフリカ）を比べる

4枚の写真から何に気づくだろう？

ことで、同じアフリカにある国どうしでも差があること、また同じ国でも、都市部と農村部では格差があることに気づく。

子ども達の感想

国によって家の中にある物の多さが違うことが分かった。外国は全部同じと思っていたけど、いろんな家やいろんな暮らしがあると分かった。物がたくさんあるとゴミが多く出ると分かった。日本は電気をいっぱい使っていたり、ぜいたくな暮らしをしていることが分かった。物が多いけど環境に悪い所と、物が少ないけど環境によい所、どっちをとればよいのだろう…私だったら物の多い方に行ってしまうな…私も自ら進んで物の少ない方に行ける人になれるかな。

9時限

青年海外協力隊員からのメッセージ

①木邑隊員や土山さんから本単元4時限目にまとめた質問一つ一つに詳しい回答をもらったことで、さらにフィジーの子供たちや自然・環境問題に対する認識を深めた。

②フィジーの子供たちと交流することについて具体的に考えた。

隊員からのメッセージ（一部抜粋）
… 略 … みんなにお伝えしたいこと。「地球上のみんなはつながってる」。人間も植物も動物も山も川も海もおうちも学校もお気に入りのおもちゃも机も本も何もかもぜんぶ。自分だけはちがうっていうことはないんだよ。
… 略 … そのつながりを、みんなとのつながりを大切にしてね。フィジーは日本とはちがう国だけど、同じ地球上に存在するんだよ。フィジーと日本のつながりは？世界中で環境問題は現実に起きているの。地球を守るのは、みんなひとりひとりの心がけだからね。だれもみんなのこと見張ってないよ。でも、自分で自分を見張ってないとだめだよ。ずるっこはなし。きれいな気持ちいい環境にしようね。せっかくすばらしい自然の景色が日本にも、フィジーにも、世界中にあるんだから。自分が病気になったらいやでしょう。自分の健康と、地球の環境は同じ。健康でいることは、環境を守ることと同じ。自分のことのように地球のことを考えてみよう。それは簡単なこと、健康でいることも簡単だから。
… 中略 … みんながフィジーのこといっぱい知って、フィジーファンになってくれたらいいなぁ。ほんとBOWはフィジーが大好きです。では(^-^)/

子ども達の感想

バウ（＝木邑）さん、私たちの質問に対して多くのことを教えてくれてありがとう。もっとフィジーの子供たちと交流してみたい。フィジーの人もいろいろなことを考えて生きているということが分かった。自然や海を大切にしているフィジーの人がすごいと思った。バウさんからのメッセージで自然を大切にしなくちゃという気持ちが強くなった……環境を守るにはどのようなことをしたらよいか、もっと考えたい。フィジーはきれいだけど、フィジーの人が日本に来たらどう思うかなあ。

10時限

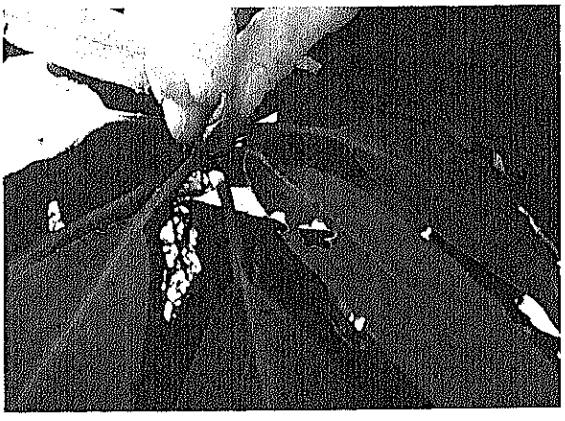
身近な自然を感じよう
～ネイチャーゲーム「宝さがし」「カメラゲーム」～

学校の裏にある「探検の森」で2つのネイチャーゲームを行った。寒い冬の晴れた日、はじめは寒そうにしていた子供たちが、冬でも自然の中にはたくさん宝物があることを感じて生き生きと活動した。

「宝さがしゲーム」は、宝物リストにあるもの（トゲトゲしたもの・鳥のはね・手のひらより大きな葉っぱ・食べあとのあるもの…等）をさがす。見つけたものをみんなで紹介し合う。

「カメラゲーム」は2人組になり、1人が目をつぶって、もう1人が誘導する。誘導する人は、写真を写したいもののところに目をつぶった人を連れて行きピントを合わせ、合図をする。合図で目を開け、3～5秒で目をつぶる。目を開けた瞬間に見えたものは印象的に目に写る。目がカメラレンズとなり、写ったものを後でカードに記録する。

「探検の森」での宝さがしゲーム


食べ跡のあるもの

■ 子ども達の感想

学校の探検の森で自然を見つけるのが楽しくて、たくさんの物を見つけた…自然を見つけるのがこんなに楽しいなんて思いもしなかった。はじめは「ホントにこれが宝？」と思っていたものも、見つかると嬉しくて宝物に思えた。いろんな自然が身の回りにはたくさんあった。自分の家の周りでも自然の宝さがしをしてみたい。カメラゲームは、どれにしようか迷うくらい自然がいっぱいあった。自然にはいろいろなものがあったけど、その中に土に返らないゴミもあった…自然の中に住んでいる私たちは自然をもっと大切にしたい。

11時限

今自分にできることを考えよう
～学習のまとめ～

本単元の学習から感じたこと、分かったこと、考えたことを振り返り、そして今から自分は何をしたらよいのか、また自分の小さな頑張りを大きな力にするためには、だれに何を伝えたらよいのか考え、話し合った。

■ 子ども達の感想

自分たちにできることをやればやるほど地球温暖化を防ぐことになる…ぼくには関係なくても未来の人々には関係あることなので努力したいと思う。１日に１人10本の使っていないコンセントを抜くことを100人でしたら…それを365日、一生ずっと続けたらいいのにな。自分手作りのポスターを作ってみんなに呼び掛けたい。家族、知り合いの人からどんどんみんなに伝えて地球を守っていけるようにしたい。

12時限

南の島の友達へ伝えよう
～発信するための計画～

木邑隊員の紹介で、三浦隊員が所属するフィジーのレブカ小学校へ向けてメッセージを発信することとなった。レブカ小学校の画像や映像は２時限目に見たので、子供たちは親しみを感じ、かえって意欲を増し、フィジーの子供たちと友達になりたい、交流したいという素朴な思いをもつ子が多かった。知らせたいことによって、グループ作りをした。

13～15時限

友達へ伝えたいことをまとめよう
～フィジー・レブカ小学校へ～

グループ毎に知らせたいことをデジカメでとったり、資料を集めたりして、模造紙にまとめ、レブカ小学校の子供たちに向けてのメッセージを添えた。

伝えたいことをまとめる

16時限

お礼の手紙を書こう

単元全体を振り返るとともに、フィジーの木邑隊員やボランティアティーチャーとしてお世話になった土山さん・佐藤さんに向けて報告とお礼の手紙を書いた。

成果と課題

授業実践にあたっては、小学生にとって開発教育は難しいのではないか、何から始めればよいのだろうか、といろいろ悩んだ。しかし授業を終えてみると、小学生には小学生の段階でやれることがあり、中・高校生でさらに深い学びを得るためにも感受性豊かな小学生のうちに触れたい内容があると思うようになった。とにかく教師としては、「やってよかった！」というのが素朴な実感である。遠く離れた南の島の環境問題も、初めはかけ離れた世界のことと感じる子が多かったが、学習が進むにつれて、自分たちの生活とも深く関わっていることなのだと自然にとらえられるようになった。

「かわいそう…。だから何かをしてあげたい。」という気持ちをもつのではなく、同じ地球に暮らす人と、人として関わりを持とうとする姿勢を育てたかった。そのため、導入段階ではあえて、自分たちと同じ小学生だと感じるような画像や映像を多く用いた。その結果、途上国理解や「国際協力・援助」という中身には十分迫ることができたとはいえない。小学校段階では難しい開発教育の本質的なねらいを今後の課題として、小学校でどんな内容をどんな形で行うことが望ましいのかを今後の課題としたい。

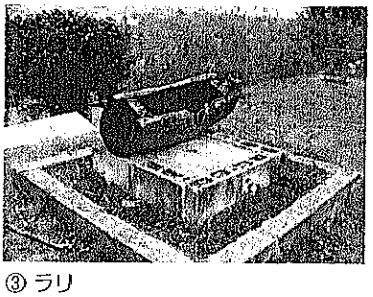
また、事後の活動で、「自然に返るものと自然に返らないもの」という環境学習を行ったり、レブカ小学校から送られてきたメッセージに触れて、さらに新たな問題意識が生まれたりした。活動がまた新たな活動のきっかけとなることを考えると、縦の系統を考えたり、学年に応じた内容を段階的に取り組ませたりする必要があると思う。今後は、そのようなカリキュラム作りにも取り組んでいきたい。

今回の実践に際しては、現地の隊員の方をはじめ、栃木県在住の青年海外協力隊OB・OGそして栃木県国際交流協会や開発教育ネットワークの方たちの協力を得た。そのことによって、現地の様子をよりリアルに伝えることができたし、ワークショップの幅も広がったので、子どもたちの内面に強く訴えかけることができたと思う。国際理解教育や開発教育にはこうした学校外の方々の協力が大きな意味をもつと感じた。

資料1　1時限　南の島の人々のくらし～南の島「フィジー」の紹介～

① スル

② カバの儀式

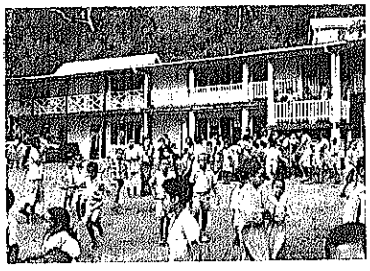

③ ラリ

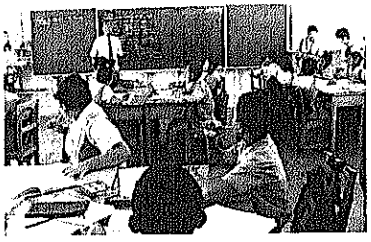
④ メケ・タパ柄

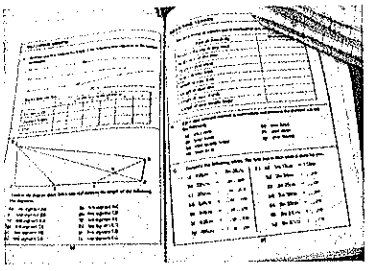
⑤ サンゴ礁の島と伝統的な家ヴァレ

⑥ サトウキビ畑

2時限　南の島の小学生


① レブカ小学校


② 算数の授業


③ 算数の教科書

【授業で使った資料・教材の入手先】

- 「フォトランゲージ　地球家族」国際理解教育センター（¥2,500）
- 「クモの巣　wooly thinking」
  いま私たちに出来ること（P15「網の目の相互依存関係」）JICA各国内機関（巻末資料参照）
- ネイチャーゲーム「宝探し」「カメラゲーム」
  ネイチャーゲーム指導者ハンドブック　日本ネイチャーゲーム協会
- ワールドスクールネットワークHP　http://www.wschool.net/

参加動機およびプロフィール

1998年から約4年間、国際理解教育主任をしていました。仕事に生かしたいという思いで、県内でボランティア団体が主催する国際理解に関するイベントやワークショップに進んで出かけていくようになり、そこで初めて「開発教育」と出会いました。今回の研修参加にあたっては、「開発教育」って何？という問いに自分でも答えられなくて、インターネットなどを使って調べました。開発教育協会や開発教育を考える会のHPを見て、その趣旨や実践に共感し、開発教育の可能性を感じました。そして参加したこの研修では、自分自身が多くの人との触れ合いを体験し、様々な感動ややりがいを感じることができました。さらにこの研修がきっかけとなり、現在「国際理解教育」をテーマに大学院で研究中です。

世界の人々のことを考えよう
～タンザニア連合共和国についての学習を契機として～

中山健次 NAKAYAMA KENJI
広島市立久地南小学校（広島県）

◎実践教科　総合的な学習の時間
◎時 間 数　33時間
◎対象学年　6年生
◎対象人数　42名（2クラス）

カリキュラム案

実践の目的

異文化理解と一口に言うが、ただ単に外国の写真や物を見せるだけではなく、着る、聴く、感じるなどの体験をさせたり、開発教育のアクティビティーなどを通して、多方面からねらいに迫りたいと考え、次のような授業を構成した。

本校は総合的な学習の時間範疇で国際理解学習を始めて２年目で、英語活動、国際交流、そして調べ学習に取り組み、中心に異文化理解と自己認識を据えている。単発の学習では到底、ねらいは達成できないと判断し、下のような長い期間の活動とした。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～6時限 開発途上国の事を知ろう	・フォトランゲージキットを使い国当てゲームをし、選んだ理由を発表する。 ・タンザニアの衣服（カンガ）を着る。 ・写真を見て感想を交換する。	・フォトランゲージキット ・世界地図
タンザニアや海外で協力活動をしている人々の様子を知ろう	・青年海外協力隊の方のインタビューVTRを視聴する。	・タンザニアの写真とVTR ・カンガ
6～8時限 「本当の豊かさ」について考えるとともに、タンザニアから学ぼう ・物質的な豊かさと人々の幸福感とは落差があることに気づく	・「豊かさ」についてブレーンストーミングを行い、出てきた言葉を分類する。 ・青年海外協力隊の方のインタビューVTRをもとに豊かさについて話し合う。 ・児童朝会で自分たちの考えを全校に伝える内容と方法について話し合う。	・模造紙 ・タンザニアの写真とVTR
9～11時限 「貧困の環」について知り、連鎖を断ち切る方法を考えよう	・「貧困カード」を使って悪循環の順番を考え、グループごとに発表する。 ・連鎖を断ち切る場所とその方法について考え、発表する。 ・「対策カード」を配り、自分たちの考えと比べる。	・ユニセフカード （貧困C 対策C）
12～15時限 タンザニアの子ども達と友だちになろう ・タンザニアの子どもたちとの交流方法を考える	・タンザニアの子どもたちと交流を深める方法を話し合う。 ・グループや個人で作品制作の計画を立てる。	・開発教育資料 ・模造紙や画用紙
「2頭のロバ」の話から問題解決の方法を考えよう ・対立場面での解決方法を探る。	・困難な問題に直面した時、解決するためには様々な方法があることを知る。	

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
16～19時限 児童労働の様子を調べよう	・水運びや袋作りの体験を通して、子どもが安い労働力として利用され学校へ通えない現状を知る。 ・世界の児童労働の実態を知る。 ・児童労働が無くならないわけを考え、ユニセフの活動について調べる。	・JICA資料 ・ユニセフポスター・VTR
20～58時限 協力隊員となって任国に協力しよう ・任国や協力活動のことを調べるなかで、国際協力に関して自分なりの考えを持つ。 ・友だちと協力して課題設定の仕方や解決のための方法を考え出す。 ・任国から学ぼうとする姿勢を育むとともに、自分の生き方をふりかえる。 ・国際協力の実際を詳しく知る。	・派遣を希望する国ごとに、グループで課題を明らかにし、役割を決める。 ・本やインターネットを使って自分の任国の自然や文化について調べる。 ・JICAやユニセフのホームページなどを利用し、自分の任国にどのような協力活動が行われているかを調べる。 ・解決できない課題について、JICA在外事務所や青年海外協力隊員、広島に滞在する留学生やNGOの方にメールや電話、インタビューをして調べる。 ・任国に対して自分たちだったらどのような協力活動ができるかを話し合う。 ・ポスターセッションをして互いに意見を交換し合う。 ・協力活動の拠点であるJICA中国を見学し、協力活動の実際を知る。	・JICAのホームページなどJICA関連の資料 ・ユニセフホームページ ・メール
62～69時限 これからも国際協力活動に興味をもち、自分が考えた方法を実践する	・メールを頂いたJICA在外事務所や協力隊の方に送るお礼のメールを作る。 ・学習のふりかえりをする。	

授業の詳細

1～6時限

開発途上国の事を知ろう

(1) フォトランゲージキットを使って国当てゲームを行い、選んだ理由を発表する。

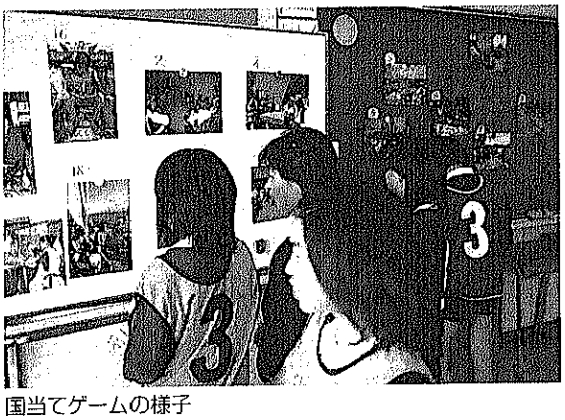
(2) タンザニアの衣服（カンガ）を着る。

(3) 写真を見て感想を交換する。

タンザニアや海外で協力活動をしている人々の様子を知ろう

(4) 青年海外協力隊員のインタビューVTRを視聴する。

教師が写した写真やVTRを使っての授業は説明を加えながら行なった。協力隊員のインタビューVTRを使った授業では、「私は『援助』という言葉は好きではない」という一言をキーワードに授業を進めた。



国当てゲームの様子

子ども達の反応

フォトランゲージでは、「途上国なのにビルがある」「ひげを生やしているのでアラブの方だろう」「男が編物をしている。おかしい」などと固定観念で物事を捉える傾向があった。カンガを着せてみたところ、子ども達は楽しそうに試着していた。また、楽器には大いに興味をそそられたようで休憩時間なども触っては音を出して楽しんでいた。

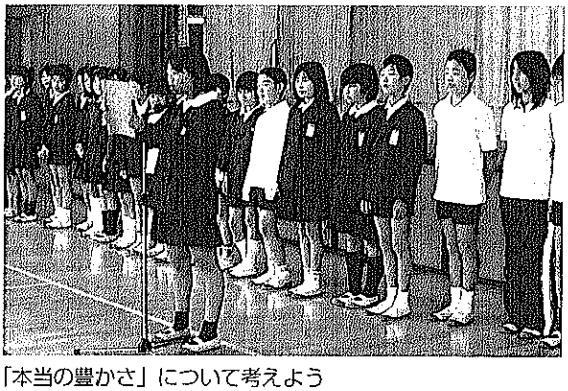
6～8時限

『本当の豊かさ』について考えるとともに、タンザニアから学ぼう

(1)「豊かさ」についてブレーンストーミングを行い、出てきた言葉を分類する。

(2) 青年海外協力隊のインタビューVTRをもとに豊かさについて話し合う。

(3) 児童朝会で自分達の考えを全校に伝える方法を話し合う。その後、本時限で話し合った内容を、代表児童が中学校区内の児童生徒意見発表会で発表した。



「本当の豊かさ」について考えよう

子ども達の反応

「豊かさ」についてブレーンストーミングを行い各自の考えを挙げると、やはり金銭的に豊かであることが「豊かさ」である意見が多数を占めた。反面、それは違うのではないかと気づく子どももいて、思考を深めるのに役立った。1～5時限の学習をもとに「本当の豊かさ」とは何かについて話し合い、児童朝会で自分達の考えを全校に伝えようということになった。

9～11時限

『貧困の環』について知り、連鎖を断ち切る方法を考えよう

(1)「貧困カード」を使って悪循環の順番を考え、グループごとに発表する。

(2) 連鎖を断ち切る場所とその方法について考え、発表する。

(3)「対策カード」を配り、自分達の考えと比べる。

貧困の環を断ち切る方法を考えよう

子ども達の反応

「貧困・食物不足・栄養不良・健康・学校・職業技術・失業・不十分な収入」の循環自体を考えるのが難しいようであった。また、それぞれの連鎖を断ち切る方法も連想が困難なようで、子ども達のアイデアとしては「お金や物を送る」という意見が多かった。中には、「種を送って現地で育ててもらう」「職業訓練の教師を派遣する」「病院や学校を現地の人を雇って作る」「赤十字に頼んで医療用具や医師を送る」というものもあったが少数意見であった。最後に「対策カード」を配ったが、言葉そのものの意味が理解できずに、どこに入れてよいかわからない子どももいた。

12～16時限

タンザニアの子ども達と友達になろう

(1) タンザニアの子ども達と交流を深める方法を話し合った。タンザニアについてはある程度学習しているうえに、本校の国際理解学習室にはタンザニアの資料が展示されているので子ども達にとっては馴染みがあった。そのためなのか、教師の呼びかけにもよく反応していろいろな案を出した。

(2) グループや個人で作品製作の計画を立てた。予算的、時間的な制約から習字と絵を書いて送ろうという案を採択し、製作した。年末には教師が訪れた学校や施設に向けて発送した。

「2頭のロバ」の話から問題解決の方法を考えよう

困難な問題に直面したとき、解決するためには

様々な方法があることを知るために「2頭のロバ」(ユニセフHP参照) の話を利用した。「どんな方法でもいいよ」と投げかけたので様々な意見が出された。子ども達からの意見は、融和的な意見、攻撃的な意見、破滅的な意見などに分類することができた。

16~19時限

児童労働の様子を調べよう

(1) 世界では子どもが安い労働力として利用され、学校へ通えない現状を知り、それを実感するためのアクティビティーを行なった。ひとつは水運びで、約5kgの水を入れたバケツを頭の上に載せ、200m歩くものである。もうひとつは袋作りで、袋を作っても作っても高い収入が得られない子ども達の実態を実感した。

(2) ユニセフから借用した、ブラジル、タイ、ケニアにおける子ども達の労働の様子を収録したVTRを視聴し、世界の児童労働の実態を伝えた。そのあと、児童労働がなくならないわけを考え、ユニセフの活動について調べた。

児童労働の様子を調べよう

バケツで水を運ぶ

子ども達の反応

水運びでは、水を運ぶしんどさや重さが実感できたようで、20kgのものを何キロメートルも頭に載せて歩く子ども達はすごい、と感心していた。児童労働に関するVTR資料を見た後、子ども達は一様に沈んだ様子であった。続いて児童労働に関して意見交換を行なったところ、親は責められない、親も救う手立てが必要、親の教育が必要、そのための経済的な基盤づくりが急務だとする意見もみられた。

20~31時限

協力隊員となって任国に協力しよう！

(1) 派遣を希望する国を出し合い、仮想の派遣希望国ごとにグループをつくる。派遣希望国はカザフスタン・インド・ラオス・ベトナム・タイ・フィリピン・モンゴル・イラク・タンザニア・ジンバブエ・ニジェール・ブルキナファソ・セネガル・ブラジル・エルサルバドル・セルビアモンテネグロの16ヶ国であった。

(2) グループ毎に課題を明らかにし、各自の役割を決める。課題の設定、役割分担に当たっては、教師が子ども達に対して以下の4点を必ず明確にするように求めた。

①任国の文化や自然などの特徴

②任国に対して現在行なわれている協力隊活動の実態

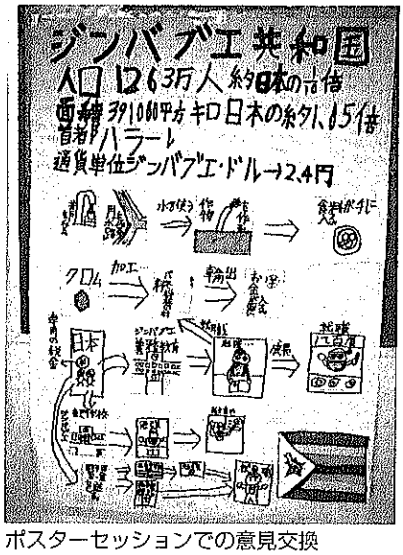
③自分達で考えた任国に対しての独自の協力方法

④得た情報の出所

(3) 本やインターネットを使って自分の任国の自然や文化について調べる。

(4) 解決できない課題について、JICA在外事務所や青年海外協力隊員、広島県に滞在する留学生やNGOの方々にメールや電話、インタビューをして調べる。

(5) 任国に対して自分達だったらどのような協力活動ができるかを話し合う。



ポスターセッションでの意見交換

(6) ポスターセッションをして意見交換をおこなう。
(7) 協力活動の拠点であるJICA中国を見学し、協力活動の実際を知る。

子ども達の反応

任国に対する協力方法に関しては、子ども達は任国の資源や特徴を良く調べてから、それを生かす協力を考えることに取り組んでいた。例えば、ブラジルでは特産の鉄鉱石や天然ゴムを利用して自動車産業を盛んにするというアイデア、あるいはジンバブエやタイでは観光産業を盛んにして経済効果を狙うといったアイデアがあがった。また、イラクやセルビアモンテネグロのように戦火で苦しんでいる国、あるいはカザフスタンのように長期間に渡って国民の健康が侵害されているような国には医療の充実や心理的なケアのためのカウンセラー派遣などが提案された。

一方では開発途上国のエネルギー確保の観点から、アフリカ諸国では先進国の資金協力で太陽光発電所を建設し、電力を売って利益を得る案、モンゴルでは風力発電が可能ではないかという案も出された。ベトナムおよびフィリピンを選んだグループは、協力隊員からのメールをもとに環境保護の必要性を指摘していた。

82～86時限

これからも国際協力活動に興味を持ち、自分が考えた方法を実践する

(1) メールを頂いたJICA在外事務所や協力隊員に送るお礼のメールの作成。
(2) 学習のふりかえり。

成果と課題

半年以上にわたって実施してきたタンザニアを契機とした国際理解学習であったが、半年前と今とを比較すると、子どもの意識には変化が見られ、最初抱いていた固定観念が多少なりとも払拭されているのではないかと思われる。授業を進める上において、遠いアフリカの国々のことだけではなく、むしろ自分の足元、教師自身の自己開発も含めて、子どもの自己解放が大切であることを念頭において実施してきた。自分自身を大切にすること、隣の友人を大切にすること、その延長線上にタンザニアはある。

20～31時間に行った授業では自分たちで課題を明らかにしていき、試行錯誤ながら問題を解決する方法も会得してきた。さらに、既成の情報を単に収集し並べ替えるだけではなく、任国に見合った協力活動を考える学習では友だちと互いに意見交換しながら独創的なアイデアを提示するグループも出てきた。最後にはJICA中国の方に授業の講評をしていただいたが、この点は認めていただけたのではないかと思う。

しかし、問題はこれらの学びをどう行動に結びつけていくかということである。道筋を示すことが出来ていたか、と言われれば少々自信がない。思えば、学習計画を整理し、もっと体験、経験を積ませておくべきだったと思う。五感に訴える経験は多いほどよいが、まだ不十分だと考えている。卒業式までの3週間を有効に使いたいと思っている。

【授業で使った資料・教材の入手先】

・「貧困の環」
ユニセフの開発のため教育～地球市民を育てるための実践ガイドブック～　日本ユニセフ協会（￥100）
・ユニセフビデオ、ユニセフパネル、ユニセフポスター
日本ユニセフ協会（ユニセフ視聴覚ライブラリー）http://www.unicef.or.jp/siryo/sicho.htm
・「2頭のロバ」
［参考HP］日本ユニセフ協会（T-NET通信　開発のための教育4号）
http://www.unicef.or.jp/kodomo/teacher/pdf/de/de_04.pdf
・JICA資料
各JICA国内機関（巻末資料参照）

参加動機およびプロフィール

我が校は国際理解教育2年目で、開発教育に関しても発展途上です。今回の研修が我が校や地域、更に自分自身にとって有意義なものになるべく、努めていきたいと思っています。
開発教育の門を叩いてようやく2年です。まだまだ駆け出しですから、日々、課題に直面し、時には自分自身の未開発に悩むことがありますが、ありがたいことに思いを同じくする多くの職場仲間に囲まれ、子ども達と楽しみながら取り組んでいます。

世界の人々とのつながりを広げよう
～開発途上国の現状に目を向けて～

天願直光 TENGAN NAOMITSU
宜野湾市立大山小学校（沖縄県）

◎実践教科　社会科
◎時 間 数　9時間
◎対象学年　6年生
◎対象人数　35名

カリキュラム案

実践の目的

本単元は、以下の記述に基づいて構想したものである。

> 小学校指導要領
> 各教科「社会」［第6学年］2 内容
> (3) 世界の中の日本の役割について、次のことを調査したり地図や資料などを活用したりして調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切であること、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを考えるようにする。
> ア　我が国と経済や文化の面でつながりの深い国の人々の生活の様子
> イ　我が国の国際交流や国際協力の様子及び平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働き

上記の事項を受けて、教育出版発行「小学社会6下」では、大単元「世界とのつながりを広げよう」を「1日本とつながりの深い国々」「2 地球の環境と平和」の二つの小単元に分けて展開している。しかし、以下の3つの視点において、より充実させた展開にしていきたいと考え、単元の設定を行った。

○子どもにとっては、本格的な世界に関する学習の入り口として、かかわりの深い国・浅い国という位置づけにとらわれず、全世界のさまざまな国の存在に目を向けさせながら導入し、子どもの世界に対する関心を深めていきたいと考えたこと。

○日本とつながりの深い国にしぼって展開していくことは、子ども達の興味関心を高めていくメリットはあるものの、一方で、遠距離にある国や、メディアではあまり取り上げられない国への関心の薄れを生み出し、心理的な距離がより拡大するおそれがあると考えたこと。

○先進国や近隣諸国ばかりではなく、開発途上国に目を向けさせていくことは、地球市民としての意識をより強く持たせながら、国際協力や日本の役割といった視点へとスムーズに移行していけると考えたこと。

本単元では学習指導要領の内容(3)のアに示されたことがらを、主として2時限と3時限に位置づけた。さらに、内容(3)のイに示されたことがらを、主として8時限に位置づけ、それに至るまでの流れを生み出すために4時限から7時限までの展開を設定した。

単元設定にあたっては、子どもの思考の流れを最大限考慮に入れながら、同時に、「地球社会の一員としての自覚と行動」をより促すような展開を図っていきたいと考えた。

単元のねらい

世界の国々のおかれた立場や現状と国際協力や援助の様子を知り、「人間相互の尊敬」や「共に生きる」という精神にもとづく国際協力へ、主体的にかかわっていこうとする態度を育てる。

単元の到達目標

開発途上国の様子や国際協力の様子などについて、新聞、写真、地図、統計グラフなどを活動して調べることを通して、世界の平和の大切さと日本の役割の大切さについて理解する力をつける。

授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 世界の国々、いくつ知っている? (オリエンテーション)	・現在世界には192の国があることを知り、世界への興味・関心を高めながら国名を調べる。	・学習シート1　(資料1) ・地図帳 ・学習シート2　(資料2) ・ワールドビンゴシート
2時限 日本とつながりのある外国について調べてみよう	・身近なモノやメディアを通して伝えられる情報などから、日本と世界がどのようにつながりを持っているかについて、興味・関心を高める。	・朝刊 ・100円ショップで買ったモノ ・学習シート3　(資料3)
3時限 日本とつながりの深い国をもっと知ろう	・人の移動やモノの移動、文化という視点から、日本とつながりの深い国について知り、それを世界白地図にまとめる。この作業を通して日本にとっての身近な国とその所在を知る。	・学習シート4　(資料4) ・5つの課題の書かれた表 ・世界白地図 ・クーピーペンシル ・学習シート1　(資料1)
4時限 開発途上国について知ろう	・世界の中には、保健衛生面、教育面、収入などの面で問題を抱えている国があること、また、それらが南に多いことを知る。	・5つの課題の書かれた表 ・世界白地図 ・学習シート5　(資料5) ・クーピーペンシル
5時限 「開発途上国」「南北問題」ってなんだろう?	・前時の内容を踏まえて、南北間の格差について気づく。…日本では考えられないような生活をしている人たちがいる。どうしてこんなに不平等なのだろう。貧しい国を救うにはどうしたらいいのだろうか?	・学習シート6　(資料6) ・「世界がもし100人の村だったら」(マガジンハウス) ・前時に子ども達が作成した世界白地図 ・プリント資料「南北問題って何だろう?」 ・NHKスペシャル『63億人の地図～①寿命』(2004年1月25日放送)
6時限 写真をつなげてタンザニアを知ろう	・複数の写真をつなげて、その物語を考えることで、開発途上国「タンザニア」の人々の生活実態を想像する	・写真と学習シート(資料7) ・ビデオ(JICA教師海外研修タンザニア班作成映像)
7時限 「貿易ゲーム」を通して国と国とのかかわりについて考えよう	・貿易ゲームを通して、原料のある国、技術のある国など、それぞれの国の状況とその格差を実感し、開発途上国のおかれた状況や国際協力の大切さについて考える。	・貿易ゲームの材料・道具(新聞紙、はさみ、のり等) ・学習シート9　(資料8)
8時限 開発途上国に対する日本の援助の様子を知ろう	・日本はODA(政府開発援助)に基づいて、開発途上国に金銭的な援助を行ったり、様々な技術を持った専門家などを派遣して、地域の生活向上のために努力していることを知る。	・ビデオ『世界のみんなの笑顔のために』 ・学習シート10　(資料9) ・資料「世界銀行の仕組み」「各国のODAの現状について」「国連(ユニセフ)について」
9時限 意見文『外国を学んで』を書こう	・学習を通して感じたこと、外国に対する見方や考え方で大きく変化したこと、これから自分ができること、行動したいとなどについて文章化する。	・学習シート11　(資料10)
発展課題 (総合的な学習の時間との関連を図る)	・これまでの学習を振り返り、さらに詳しく調べたいことを決め、各自で追求する。 ・テーマの例 ○地球環境の諸問題について ○世界の紛争と国連の役割について ○日本の海外援助について	

授業の詳細

1時限

オリエンテーション
世界の国々、いくつ知っている？

●目標

現在世界には192の国があることを知り、世界への興味関心を高めながら国名を調べる。

●内容

①世界には何カ国ぐらいあるのだろう。…192カ国

②調べた国名を五十音順に学習シート1（資料1）に書いてみる。

③地図帳を広げて、だれも書いていないだろうと思う国名を一人一つずつ発表する。それを聞いて、子ども達は赤ペンで学習シートに国名を書き入れていく。

④全員にもう1枚ずつ学習シート1を配り、今日家で全部書くことができるかどうか、挑戦する。（家庭での調べ学習へと展開）

⑤最後に、これから学習を進めていく上で必要な学習シート2（資料2）を記入する。（日本とつながりの深い国と、そうでない国について書く）。

■子ども達の感想

・少しは世界のことを勉強しなければ…。国の名前でチャドとか、マルタとかおもしろい名前がたくさんあるんですが、どういう国なんですか。

・こんなに国の名前を知らないのではずかしい。こういう国の名前の勉強は、やっていて楽しいのでまたやってほしい。

2時限

日本とつながりのある外国について調べてみよう

●目標

身近なモノや、メディアを通して伝えられる情報などから、日本と世界がどのようにつながりを持っているかについて、興味・関心を高める。

●内容

①日本とつながりの深い国はどこだろう？（前時のアンケート結果を紹介する）

②つながりの深い国は本当にそれだけなのだろうか？では、その国を知るには、何を使って、どんなことを調べたらよいかを学習シート3（資料3）に一人一人予想してみる。

・新聞記事から

・サッカーリーグやワールドカップサッカー、バレーボールから

・社会科の教科書から

・スーパーマーケットの食品を調べて

・自分の住んでいる町の外国の商品や食べ物を扱っている店から

・100円ショップの品物から

③グループごとに、朝刊に出てくる国々について調べてみる。そのときに、国名なのか都市名なのかを地図帳と照らし合わせながらはっきりさせる。

④出てきた国を、地図帳で調べて白地図に記入する。

⑤「先生は昨日、100円ショップに行ったのだけれど、そこでこんなモノがあったよ。」と日本人向けにつくられたモノを見せて外国産であることを伝え、いくつかの物については、どこの国で作られているのかを紹介する。こうした物を通して日本とのつながりを意識させる。

〈紹介したもの〉

竹とんぼ（中国）、フロッピィディスク（シンガポール）、シューズキーパー（イタリア）、コピー用紙（インドネシア）、クリアフォルダー（大韓民国）、ボールペン（タイ）、修正テープ（ベトナム・マレーシア）

⑥金、土、日で調べてみたいことや行ってみたい場所を決めて、学習シート3（資料3）に書いてみる。

新聞記事から国名を探す子ども達

⑦今日の学習を振り返って、学習シート3（資料3）にまとめる。

子ども達の感想

・パソコンでも調べてみようと思った。つながりの深い国は、いろんな所や物で分かるんだなあ、と思いました。
・いっぱい調べられて楽しかった。社会ってキライだったけど、楽しくできました。
・今日は道具なども使ってとても楽しかったです。もっと世界の食べ物を調べたい。
・新聞でもっとたくさんの国を調べてみたい。いろいろな国のかかわりがあるのが分かって、とても楽しかった。
・100円ショップに行ったら、どこの製品か見ようっと。楽しかった。

3時限

日本とつながりの深い国をもっと知ろう

●目標

人の移動やモノの移動、文化という視点から、日本とつながりの深い国ついて知り、それを世界白地図にまとめる作業を通して、日本にとっての身近な国と、その所在を知る。

●内容

①世界地図クイズを行う。
「名前が似ている国クイズ」
・○○○スタン…国名の最後が「スタン」となっている国6カ国
・○○○ニア…国名の最後が「ニア」となっている国13カ国
・○○○リア…国名の最後が「リア」となっている国10カ国

②次の5つの課題の中からグループで一つを選び、課題にあてはまる国の場所を地図帳で調べ、白地図に色を塗っていく。この作業を始めるにあたり、それぞれの課題とあてはまる国名をまとめたプリントを配布した。
・物語の舞台をたずねよう（14地名）
・日本人が出かける外国ベスト17

白地図に，日本とのつながりの深い国に色を塗る子ども達

・日本人が暮らしている国ベスト10
・外国から日本に来る人の数ベスト15
・日本の主な貿易相手国（輸出入）ベスト15

③作業が早めに終わったグループは、前の授業で出てきた国名と、今日の授業で出てきた国名を、学習シート1（資料1）に書き込んでいく。

④これらの作業を通して、日本にとってつながりの深い国とはどのような国なのか、気づいたことを発表する。
「日本とつながりの深い国とはどんな国だと思うか？」
・テレビや新聞によく出る国。アジアやアメリカ。
・ヨーロッパが物語の舞台になっている。日本人が出かける国はアジアが多い。
・世界地図から見て、左側が多い。ほとんどの人に名前が知られている国。
・先進国で一般に名前が知られている国。赤道から見て上の国（北半球）の国。
・出かける国・暮らしている国はアメリカなどの先進国。あと、輸入のかかわりが深い国は、自然資源が多い国。

⑤今日の学習を振り返って、学習シート4（資料4）にまとめる。

子ども達の感想

・日本はこんなに外国とのかかわりが深いんだなあ、と思った。
・日本とのつながりの深い国はアメリカだと思っていたから、なんか、もっと調べなきゃ、と思った。（前

の時間を受けて）地図の中で新しい国とかなくなった国とか、分からないので、機会があれば教えてください。
・日本人が出かける外国は、中国と思っていたけど、実際はアメリカだったということが初めて分かった。

4時限

開発途上国について知ろう

●目標

世界の中には、保健衛生、教育、収入などの面で課題を抱えている国があることや、それらが主に南に多いことを知る。

●内容

次の５つの課題の中から、グループで一つを選び課題にあてはまる国の場所を地図帳で調べ、白地図に色を塗っていく。この作業を始めるにあたり、それぞれの課題とあてはまる国名をまとめたプリントを配布した。なお、各課題の日本の数値もプリント中に示し、日本と比較できるようにした。

・世界のハンガーマップ
・世界の平均寿命マップ
・世界の非識字率（15才以上の大人で読み書きのできない人の割合）
・子どもの60%未満しか小学校にいっていない国
・１人当たりの１年間の収入が低い国

子ども達の感想

・北朝鮮が途上国と知ったとき、意外でした。
・アフリカ州あたりに、平均寿命の短い国や１年間の収入が低い国が集まっている。
・ザンビアというところは、平均寿命が一番短いということがわかりました。早く死んでしまうのはかわいそう。
・アフリカ州が今日の授業の中でいっぱいありました。エチオピアの１年間の収入は少なくて、どうやって生活しているのかと思った。

5時限

「開発途上国」「南北問題」って何だろう？

●目標

南北間の格差について気づく。

●内容

①みんなが考える、日本とはさほどつながりの深くない国とはどんな国だろう？
②「世界がもし100人の村だったら」より、それぞれの項目に当てはまる人数を想像して、学習シート6（資料6）に書き入れてみる。
③「先進国」、「開発途上国」、「後発開発途上国」、「南北問題」という言葉を知る。南北問題に関する解説や世界中の途上国の分布図をまとめたプリントを配布し、プリントを見ながら、「南北問題の原因と結果」を推測する。
　先進国→開発途上国
　（武器の輸出、加工品輸入、経済力で進出）
　開発途上国→先進国
　（資源の流出、債務の返済、人材の流出）
④ＮＨＫスペシャル「63億人の地図～①寿命」（2004.1.25放送）の番組から、平均寿命が世界一短いシエラレオネの現状を知る。（約12分間）

子ども達の感想

・「生きていることに感謝」を忘れてはいけない。
・４人に１人が５歳以下で亡くなるので、どうして日本との差がこんなにあるんだろうと思いました。
・私は12歳ですが、私より年下の子が、命の大切さを分かっているんだなあ、と思いました。これからは一日一日を大切に生きたいです。
・シオラレオネの平均寿命が34歳だったのが、一番おどろいた。生きるということがこんなにむずかしいとは思わなかった。
・シオラレオネの平均寿命の低さ、病気や手がなかったりしての生活でも、１日１日を大切にしているのを見て、私は強い国なんだと思いました。
・まずしい国を救えたらいいなあと思いました。

6時限

写真をつなげてタンザニアを知ろう

●目標

複数の写真をつなげて、その物語を考えることで、開発途上国「タンザニア」の人々の生活実態を想像する。

●内容

①8つのグループをつくり、準備した写真（大人の様子を中心にしたもの4枚×4組、子どもの様子を中心にしたもの4枚×4組、計8組32枚）を1グループ1組ずつ配る。（資料7）

②グループごとにそれぞれの写真をじっくり見て、見つけたこと、考えたこと、想像したことをもとにタイトルをつける。

③グループごとに4枚の写真を自由に組み合わせて、一つの物語を作る。

※途上国の典型的なステレオタイプの写真と、全く正反対の状況を示す写真（貧困と豊かさを示すもの、明るく楽しげな表情とそうでない表情など）を組み合わせられるようにした。

④つくった物語をグループの代表が発表する。

⑤それぞれのグループがつくった物語で、似たようなところと、ちがうところを考える。

⑥ビデオ映像を通してタンザニアの人々の様子を知る。（約20分）

■子ども達の感想

・タンザニアの子ども達は生活が貧しくてもみんな笑顔でがんばっているので、すごいなあと思いました。写真やビデオを見て、生きることの大切さなどがいろいろわかりました。

・写真を見たとき、はじめはやっぱりかわいそうだと思いました。けれど、写真の中には、みんなが楽しそうに笑っているのもありました。これを見て、私はただかわいそうなだけではないと思いました。

・子ども達は、みんな笑顔だった。貧しい暮らしをしているのに、何でかなあ、と思いました。トウモロコシは、家畜用を食べていると聞いて、びっくりしました。それにくらべると私たちは幸せなんだなあ、と実感しました。

写真を使って，タンザニアの人々の様子を想像し，発表する子ども達

7時限

「貿易ゲーム」を通して国と国とのかかわりについて考えよう

●目標

ゲーム活動を通して、原料のある国、技術のある国など、それぞれの国と国との状況とその格差を実感し、開発途上国の置かれた状況や国際協力の大切さについて考える。

●内容

ゲームのルールの説明後、グループで協力しながら「貿易ゲーム」に取り組む。教師は価格の変動や、需要と供給のバランス、新しい技術の開発による価格の変化などをゲームの途中で提示し、生徒たちが開発途上国の置かれた現状を実感できるようにした。

貿易ゲームで物々交換を申し出る子ども達

■子ども達の感想

・私達は、G国で資源はあるのに道具が無かったから、ずっと交渉していた。交渉した結果、はさみとものさしが手に入った。でも、1個ずつしかなかったから、作業があんまり進まなかった。D国とB国と組んで何とか3枚はコインをもらえた。A国の人たちは、アメリカや日本みたいだなあ、と思った。この活動を通して開発途上国の大変さが

実感できた。

・貿易ゲームをして、ぼく達のグループは材料が少ししかなかったので、他のグループと交渉するのが大変でした。あと、材料がそろっているグループと、そうでないグループはとても差がありました。開発途上国の気持ちがわかったような気がしました。こんな楽しいゲームで勉強ができたので良かったです。

・ゲームみたいな感じだったけど、これが今の世界の現状なのかなと思いました。資源の無い国はいつまでたっても貧乏で、豊かな国はとってもお金持ちで、たくさん働こうと思っても道具がなさすぎて苦しかった。みんなで道具を分け合えばいいのにと思いました。そして、私が今住んでいる豊かな日本には何ができるんだろうと思いました。

8時限

開発途上国に対する日本の援助の様子を知ろう

●目標

日本はODA（政府開発援助）にもとづいて、開発途上国に金銭的な援助を行ったり、さまざまな技術を持った専門家などを派遣して、地域の生活の向上のために努力していることを知る。

●内容

①貿易ゲームの結果を振り返り、結果に差が出た原因をグループごとにもう一度考えてみる。

・何でもそろっていて、たくさんコインを稼いだ国
…役割分担と協力がうまくいった。

・何でもそろってはいたものの、あまり稼ぐことができなかった国
…役割分担や作業過程に問題があった。

・モノはそろってはいないものの、かなり稼ぐことができた国
…他の国と交渉をして、モノを交換し、さらに役割分担と協力がうまくいった。

・モノもそろっていなくて、稼ぐこともできなかった国
…交渉も十分ではなく、少ないモノで何にもできなかった。

②あなたが、もし他国の大統領だとしたら、どんな命令を出しますか？

③「大きすぎる差を縮めるために、私たちが今住んでいる豊かな日本は、何ができるのか」を予想してみる。

④日本が行っている開発途上国に対する援助の様子を、ビデオ「世界のみんなの笑顔のために」（約21分）から知る。

⑤グラフや表をもとに、日本の援助の様子を詳しく知る。

子ども達の感想

・日本の協力で「日本橋」とか学校が出来るなんてすごいと思いました。また、ビデオでは、日本の協力で世界の人が笑顔になっていたのでいいなあと思いました。

・貧しい国とかも、日本の活躍で助かっていたなんて初めて知りました。私たち日本も、昔はあんなふうに助けられていたと思うと他の国の人に感謝しています。

・日本は、AB国みたいに、技術を独占していると思っていたけど、その分良いこともしているんだなと思いました。もっともっと技術もお金も援助していけたらいいなと思いました。

9時限

意見文「外国を学んで」を書こう

学習を通して特に感動したこと、外国に対する見方・考え方で大きく変化したこと、これから自分が、行動していきたいことなどを中心に文章化した。

発展課題

これまでの学習を振り返り、さらに詳しく調べたいことを決め、各自で追求する。（※総合的な学習の時間との関連を図る。）

○地球環境の諸問題について
○世界の紛争と国連の役割について
○日本の海外援助について

成果と課題

単元を展開していく中で、世界のさまざまな国の存在に、幅広く目を向けるとともに、開発途上国に対する関心と理解を深めることができたと考える。さらに、タンザニアをはじめとする、開発途上国の現状とそこに生活する人々の思いや願いに触れながら、地球社会の一員としての意識も少しずつ身に付けることができたのではないかと考える。このことは本単元の学習後の、JICA沖縄とタイアップした、「ジンバブエに鍵盤ハーモニカを送ろう」という活動や、NGO沖縄アジアチャイルドサポートに協力する形で、「アルミ缶を集めて井戸掘りの援助資金にしよう」という活動へと発展出来たことからも伺えた。

今後の課題としては、実際に人に触れるという「交流体験活動」を取り入れながら、より充実した活動を展開していくことが挙げられる。

【参考文献】

・浅井　信雄　監　「ワールドマップルなるほど世界知図帳'03-'04」　昭文社
・池田香代子　編　「世界がもし100人の村だったら」　マガジンハウス
・大芝　亮　監　「21世紀をつくる国際組織事典　全7巻」　岩崎書店
・北　俊夫・寺田　登　編　「新小学校教育課程講座〈社会〉」　ぎょうせい
・財団法人国際協力推進協会　編　「開発教育・国際理解教育ハンドブック」
・杉下　恒夫　著　「学習図説　小学校社会科全集7　世界の国々と日本」　国土社
・高旗　正人　著　「自立と共生の心を育てる小集団学習」　黎明書房
・西川　秀智　著　「クイズで楽しく地図帳と遊ぼう」　文英堂
・古川　清行・梶井　貢・渡辺やす子　編　「わくわくどきどきチャレンジ社会科小学校6年」　東洋館出版社
・正井　泰夫　監　「今がわかる時代がわかる世界地図2004年版」　成美堂出版
・文部省　小学校社会科指導資料　「新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造」

【授業で使った資料・教材の入手先】

・ビデオ「世界のみんなの笑顔のために」国際協力プラザ（巻末資料参照）
・「新・貿易ゲーム～経済のグローバル化を考える～」　開発教育協会（巻末資料参照）

資料1　1時限　学習シート1「世界の国々いくつ知ってる？」

「世界の国々いくつ知ってる？」名前（　　）

1	ア	33		65	サ		
2		34		66			
3		35		67			
4		36	カ	68			
5		37		69			
6		38		70	シ		
7		39		71			
8		40		72			
9		41		73			
10		42		74			
11		43		75			
12		44		76	ス		
13		45		77			
14	イ	46	キ	78			
15		47		79			
16		48		80			
17		49		81			
18		50		82			
19		51		83			
20		52		84			
21		53	ク	85	セ		
22	ウ	54		86			
23		55		87			
24		56		88			
25		57		89			
26	エ	58	ケ	90			
27		59	コ	91			
28		60		92	ソ		
29		61		93			
30		62		94	タ		
31		63		95			
32	オ	64		96			

＊192番目の国までリストが続きますが、省略させて頂きます。

資料2　1時限　学習シート2

「世界の人々とのつながりを広げよう」　学習シート
6年　組 名前

「世界」という言葉から思いうかぶことがらを5つ書いてください。
1
2
3
4
5

日本と最もつながりの深い国はどこだと思い当ですか。国の名前と，そう考える理由を書いてください
国　名
理　由

日本とはさほどつながりが深くないだろうという国や地域を書いてください。
国名や地域名

今日の授業を終えて，自分に一言！

今日の授業を終えて，先生に一言！

資料3　2時限　学習シート3 ～日本とのつながりの深い国を調べよう～

「世界の人々とのつながりを広げよう」　学習シート
第2時　～日本とのつながりの深い国を調べよう～
6年　組 名前

新聞記事に出てくる国々について調べてみよう。	
国　名	新聞のどこに？（社会，市町村，スポーツ，国際，総合など）

●出てきた国を，白地図に記入しよう。（地図帳を使って）

日本とのつながりが深い国を知るためには，何を使って（どこへ行って），どんなことを調べたらいいのだろう。	
何を使って（どこへ行って）	どんなことを

※全，上，日で行ってみたい場所や調べてみたいことを決めてみよう。

今日の授業を終えて，自分に一言！

今日の授業を終えて，先生に一言！

資料4　3時限　学習シート4 ～日本とのつながりの深い国をもっと知ろう～

「世界の人々とのつながりを広げよう」　学習シート
第3時　～日本とのつながりの深い国をもっと知ろう～
学習した日　　月　　日，　6年　組 名前

次の4つの課題の中から，グループで一つ選んでその国名を地図帳で調べ，白地図に色を塗っていこう。 ①「物語の舞台をたずねよう（14地名）」 ②「日本人が出かける外国ベスト17」 ③「日本人が暮らしている国ベスト10」 ④「外国から日本に来る人の数ベスト15」 ⑤「日本の主な貿易相手国（輸出入）ベスト15」
この活動を通して，日本とつながりの深い国とは，どんな国だと考えますか。

～世界地図クイズ～　　「名前が似ている国クイズ」

・○○○スタン…国名の最後が「スタン」となっている国6カ国
　〔　　スタン〕〔　　スタン〕
　〔　　スタン〕〔　　スタン〕
　〔　　スタン〕〔　　スタン〕
・○○○ニア…国名の最後が「ニア」となっている国13カ国
　〔　　ニア〕〔　　ニア〕〔　　ニア〕
　〔　　ニア〕〔　　ニア〕〔　　ニア〕
　〔　　ニア〕〔　　ニア〕〔　　ニア〕
　〔　　ニア〕〔　　ニア〕〔　　ニア〕
　〔　　ニア〕
・○○○リア…国名の最後が「リア」となっている国9カ国
　〔　　リア〕〔　　リア〕〔　　リア〕
　〔　　リア〕〔　　リア〕〔　　リア〕
　〔　　リア〕〔　　リア〕〔　　リア〕

今日の授業を終えて，一言！

資料5　4時限　学習シート5 ～開発途上国について知ろう～

「世界の人々とのつながりを広げよう」　学習シート
第4時　～開発途上国（かいはつとじょうこく）について知ろう～
学習した日　　月　　日，　6年　　組 名前

次の5つの課題の中から，グループで一つ選んでその国名を地図帳で調べ，白地図に色を塗っていこう。
①「世界の平均寿命マップ」
②「1人当たりの1年間の収入が低い国」
③「世界のハンガーマップ」
④「世界の非識字率（15才以上の大人で読み書きのできない人の割合）」
⑤「子どもの60％未満しか小学校にいっていない国」

この活動を通して，わかったことを書いてみよう。

「開発途上国・先進国」とは…

※NHKビデオで，シエラレオネの様子を見てみよう。

今日の授業を終えて…

資料6　5時限　学習シート6 ～開発途上国って何だろう、南北問題って何だろう～

「世界の人々とのつながりを広げよう」　学習シート
第5時　～開発途上国って何だろう，南北問題って何だろう～
学習した日　　月　　日，　6年　　組 名前

6の4のみんなが考える，日本とはさほどつながりの深くない国（アンケートの結果）
○アフリカ州⑨　（モロッコ②，チャド②，リビア，ガーナ，スーダン，エジプト，ボツワナ，ジブチ）
○北アメリカ州④（カナダ②，バルバドス，アメリカ，ホンジュラス，）
○南アメリカ州②（ウルグアイ，ボリビア，）
○アジア州⑤　（モンゴル②，フィリピン，シンガポール，インド，イラク，）
○ヨーロッパ州⑨（フランス②，アイスランド，スウェーデン，アイルランド，オーストリア，ノルウェー，ギリシャ，ドイツ，ポーランド，チェコ）
○オセアニア州（なし）

「世界がもし100人の村だったら」（63億人の人口を100人におきかえて）…。それぞれの（　）に当てはまる人数を想像して，（　）の左側に数字を書き入れてみよう。
○（　／　）人がアジア人です。（　／　）人がアフリカ人。（　／　）人が南北アメリカ人。（　／　）人がヨーロッパ人。（　／　）南太平洋地域の人々です。
○（　／　）人が栄養が十分ではなく，そのうちの（　／　）人は死にそうなほどです。でも，（　／　）人は太りすぎです。
○（　／　）人は食べ物の蓄えがあり，貯蓄をしのぐところがあります。（家がある）でも，あとの（　／　）人は食べ物のたくわえもなく，家もありません。
○（　／　）人はきれいで安全な水が飲めますが，あとの（　／　）人はそうではありません。
○（　／　）人が大学の教育を受け，（　／　）人がコンピュータを持っています。でも，（　／　）人は文字が読めません。

（南北問題：原因と結果）

先進国→開発途上国	開発途上国→先進国
A	B
D	C
F	E

※NHKビデオで，シエラレオネの様子を見てみよう。

今日の授業を終えて…

資料7　6時限　写真をつなげて開発途上国「タンザニア」を知ろう

「世界の人々とのつながりを広げよう」　学習シート
第6時　～写真をつなげて開発途上国「タンザニア」を知ろう～
学習した日　　月　　日，　6年　　組 名前

グループに配られた4枚の写真のタイトルを書こう。
1「　　」
2「　　」
3「　　」
4「　　」

4枚の写真をじっくり見て，見つけたこと，考えたこと，想像したことをグループのワークシートにくわしく書いてみよう。

地図帳でタンザニアの一を調べてみよう。

タンザニアのビデオから，人々の様子や町の様子を知ろう。

今日の授業を終えて…

学習シート7

「世界の人々とのつながりを広げよう」　学習シート
第6時　～写真をつなげて開発途上国「タンザニア」を知ろう～
学習した日　　月　　日，
（　）グループ，
名前（　　）（　　）（　　）（　　）（　　）

グループに配られた4枚の写真のタイトルを書いて，その写真から見つけたこと，考えたこと，想像したことをくわしく書いてみよう。

1「　　」

2「　　」

3「　　」

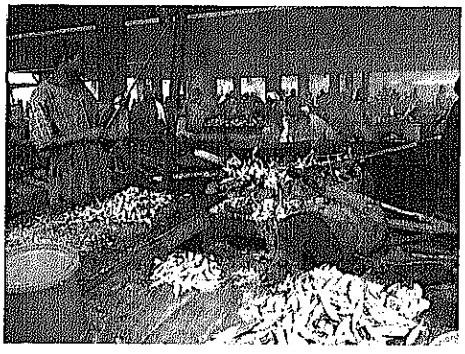
4「　　」

4枚の写真をじっくり見て，見つけたこと，考えたこと，想像したことをもとに，一つの物語を作ってみよう。

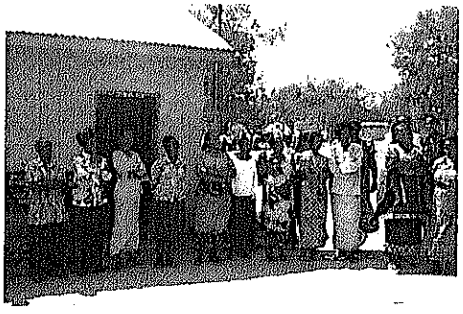
他のグループの内容と比べて，同じところはどこだろう。

他のグループの内容と比べて，ちがうところはどこだろう。

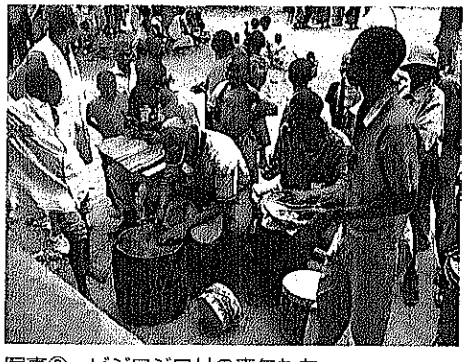
学習シート8



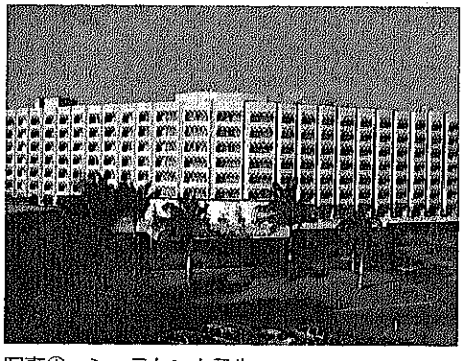
写真①　魚市場で作業する男性



写真②　ブイル小学校の教師たち



写真③　ビジワジワ村の青年たち



写真④　シェラトンホテル

写真⑤　カンガを売る商店前の少年

写真⑥　水汲みから帰る子ども達

写真⑦　クラシニ孤児院の子ども達

写真⑧　タバタA小学校の子ども達